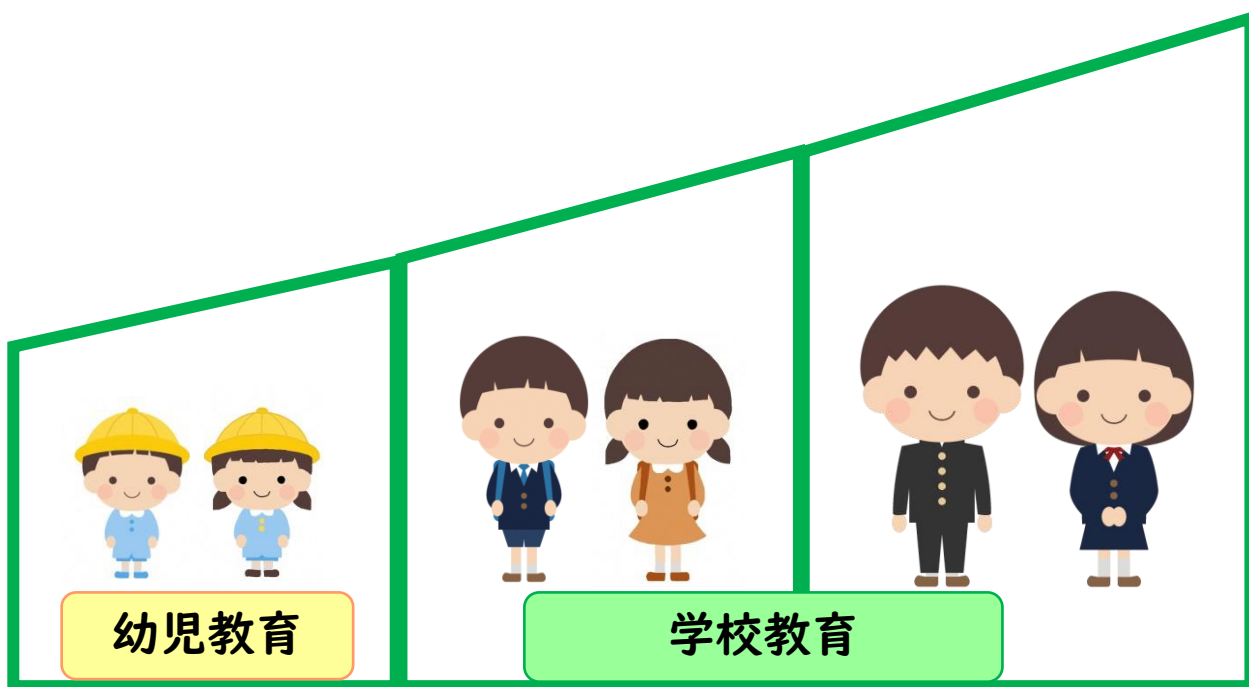


かけがわ型 育ちと学びのジョイントブック

～幼児教育の「学びの芽生え」を学校教育の「学びの基礎」へとつなぐ～



「かけがわ型 育ちと学びのジョイントブック」の活用にあたって

【 幼児教育と学校教育について 】

◆幼児教育と学校教育の連携・接続の取組がより一層求められています

平成29年3月に告示された「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」「保育所保育指針」「小学校学習指導要領」では、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）」を園小において共有するなど連携を図り、幼児教育での育ちと学びを学校教育に円滑に接続していくことが明記されるなど、幼児教育と学校教育の連携・接続の取組がより重要視されています。

◆学校段階等間を貫く育みたい資質・能力の明確化

平成29年3月に告示された「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」「保育所保育指針」「（小学校以上の）学習指導要領」すべてにおいて、育みたい資質・能力が「知識及び技能（の基礎）」「思考力、判断力、表現力等（の基礎）」「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱に整理されました。

このことにより、「18歳の段階で身に付けておくべき力は何か」が明確になり、幼児期から高等学校までを見通した教育を展開していくことが一層求められています。

※（の基礎）は幼稚園教育要領等

【 「かけがわ型 育ちと学びのジョイントブック」のねらい 】

◆育ちや学びの連続性

→育ちや学びは連続しており、幼児教育から学校教育への移行を円滑にする必要があります。

◆幼児教育と学校教育の共有と理解

→「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）」を手掛かりに、幼児期から児童期への育ちのつながりを理解しましょう。
また、互いの教育内容、指導方法の違いや共通点を理解していきましょう。

◆幼児教育での育ちを生かしながら、学校教育での教科等への学びにつなげる

→学校教育はゼロからのスタートではなく、幼児教育での育ちを生かしながら、教科等の学びにつなぎ、子どもたちの資質・能力を伸ばしていきます。そのために、幼児教育と学校教育の接続を見通した教育課程を計画・実施していきましょう。

保育者と教員が、この
ジョイントブックを
手掛かりに、
子どもの育ちと学びを
考えていきましょう。



「幼児教育と学校教育の学びのつながりイメージ図」

学びの芽生え 幼児期

学びの基礎 児童期

幼児期の終わりまでに
育ってほしい姿(10の姿)

(幼児教育では、基礎を育成)

実際の社会や生活で生きて働く 知識及び技能

(幼児教育では、基礎を育成)

未知の状況にも対応できる 思考力、判断力、表現力など

学んだことを人生や社会に生かそうとする 学びに向かう力、人間性など

アプローチカリキュラム

スタートカリキュラム

かけがわ型小中一貫カリキュラム

遊び

かけがわ型 育ちと学びのジョイントブック

学び

幼児教育 (幼稚園・保育園・認定こども園等)

学校教育 (小学校・中学校)

〈かけがわ中学校区学園化構想〉

『かけがわ家庭の学びブランドデザイン』

遊びを中心として、主体的に
様々な対象と関わりながら、総
合的に学んでいきます。

遊びを通して育まれた様々な
力を、小学校の教科等の学習に
つなげるよう、授業の工夫をし
ていきます。

学ぶ力の向上

小学校高学年
中学校へ

幼児教育と学校教育の接続とは…

多くの学園で、園小の連携に取り組んでいます。互いを知る上で
大変重要であり、子どもたちに切れ目のない支援をすることができ
ます。

⇒ 今後は、**連携だけでなく円滑な接続へ**

幼児教育と学校教育の接続を見通した教育課程の計画・実施

アプローチカリキュラム

スタートカリキュラム

1年生は、ゼロからのスタートではない！

幼児教育を通して、身に付けたことを生かしながら、教科等の学び
へつなげていきます。小学校教育を幼児教育の延長と考えつなぐこ
とで、子どもたちの成長を伸ばしていきましょう。

学校教育

幼児教育

「円滑な接続」
により成長の伸び
が大きくなります。

円滑な接続

「幼児期の子どもの発達や学び」を「学校教育」へつなぐ



幼児教育

幼稚園・保育園・認定こども園等

- ① 健康な心と体
- ② 自立心
- ③ 協同性
- ④ 道徳性・規範意識の芽生え
- ⑤ 社会生活との関わり
- ⑥ 思考力の芽生え
- ⑦ 自然との関わり・生命尊重
- ⑧ 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚
- ⑨ 言葉による伝え合い
- ⑩ 豊かな感性と表現

幼児期の終わりまでに
育ってほしい姿（10の姿）



学校教育

アプローチカリキュラム

スタートカリキュラム

かけがわ型 育ちと学びのジョイントブック

幼児期の学びについて

知識を教えられて身に付けていく時期ではありません。遊びを中心として、頭も心も体も動かして、主体的に様々な対象と関わりながら、総合的に学んでいきます。遊びを通して思考をめぐらし、想像力を発揮し、また、友達と共有したり協力したりして育っていきます。

幼児期の遊びには
豊かな学びがある

遊び＝学び

生活科を中心とした

合科的・関連的な指導を充実させる

入学当初、遊びを通して育まれてきた幼児期の学びや育ちを生かし、個の発達に応じた合科的・関連的な指導をすることによって、子どもが自信や意欲をもって活動し、よりよく成長していくことができます。

合科的な指導とは？

生活科を中心とした複数の教科の目標や内容を組み合わせて学習活動を展開することで、指導の効果を高めます。

関連的な指導とは？

互いの学習成果（生活科と他教科）を学習に生かすことで、身に付いた力が確かなものになります。

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）」

【「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）」についての考え方】

☆到達目標ではなく、1項目ずつ取り出して指導したり、評価したりするものではない。
☆それぞれの時期にふさわしい遊びや生活を積み重ねることにより、見られる姿である。

「10の姿」を念頭に置いて、一人一人の発達に必要な体験が得られるような状況をつくったり、遊びの中で育っているか、必要な援助は何かを考え支援を行ったりすることが大切です。

①健康な心と体

園生活の中で、充実感をもって自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせ、見通しをもって行動し、自ら健康で安全な生活をつくり出すようになる。



②自立心

身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中で、しなければならぬことを自覚し、自分の力で行うために考えたり、工夫したりしながら、諦めずにやり遂げることで達成感を味わい、自信をもって行動するようになる。



③協同性

友達と関わる中で、互いの思いや考えなどを共有し、共通の目的の実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したりし、充実感をもってやり遂げるようになる。



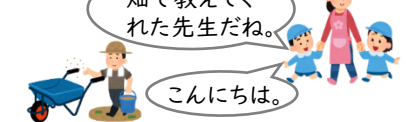
④道徳性・規範意識の芽生え

友達と様々な体験を重ねる中で、してよいことや悪いことが分かり、自分の行動を振り返ったり、友達の気持ちに共感したりし、相手の立場に立って行動するようになる。また、きまりを守る必要性が分かり、自分の気持ちを調整し、友達と折り合いを付けながら、きまりをつくったり、守ったりするようになる。



⑤社会生活との関わり

家族を大切にしようとする気持ちをもつとともに、地域の身近な人と触れ合う中で、人との様々な関わり方に気付き、相手の気持ちを考えて関わり、自分が役に立つ喜びを感じ、地域に親しみをもつようになる。また、園内外の様々な環境に関わる中で、遊びや生活に必要な情報を取り入れ、情報に基づき判断したり、情報を伝え合ったり、活用したりするなど、情報を役立てながら活動するようになるとともに、公共の施設を大切に利用するなどして、社会とのつながりなどを意識するようになる。



⑥思考力の芽生え

身近な事象に積極的に関わる中で、物の性質や仕組みなどを感じ取ったり、気付いたりし、考えたり、予想したり、工夫したりするなど、多様な関わりを楽しむようになる。また、友達の様々な考えに触れる中で、自分と異なる考えがあることに気付き、自ら判断したり、考え直したりするなど、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自分の考えをよりよいものにするようになる。



⑦自然との関わり・生命尊重

自然に触れて感動する体験を通して、自然の変化などを感じ取り、好奇心や探究心をもって考え言葉などで表現しながら、身近な事象への関心が高まるとともに、自然への愛情や畏敬の念をもつようになる。また、身近な動植物に心を動かされる中で、生命の不思議さや尊さに気付き、身近な動植物への接し方を考え、命あるものとしていたわり、大切にする気持ちをもって関わるようになる。



⑧数量や図形・標識や文字などへの関心・感覚

遊びや生活の中で、数量や図形、標識や文字などに親しむ体験を重ねたり、標識や文字の役割に気付いたりし、自らの必要感に基づきこれらを活用し、興味や関心、感覚をもつようになる。



⑨言葉による伝え合い

保育者や友達と心を通わせる中で、絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付け、経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし、言葉による伝え合いを楽しむようになる。



⑩豊かな感性と表現

心を動かす出来事などに触れ感性を働かせる中で、様々な素材の特徴や表現の仕方などに気付き、感じたことや考えたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりし、表現する喜びを味わい、意欲をもつようになる。



「幼児教育」と「学校教育」のつながりをイメージ (幼児期の経験が学校教育にどのようにつながるかを示した例)

幼児教育での姿

《どろんこ遊び》

ここに穴を掘ってみようかな。

穴の中に入れた水がなくなった！
なんでだろう…

水を流したら、
山に道ができた。
もっと流したら、
どうなるのかな。



もっとたくさん水を流してみよう。このバケツの方が大きいからこれを使おう。

じゃあ、ぼくももっと大きなバケツで、水を入れてみよう。

《虫を見つけたよ》

これはバッタかな。
あの虫の本を見
てみよう。

コオロギってどこに
いるのかな。バッタは
草むらでとんでたよね。



あの花壇の方にいたかも。

カマキリの手の動
きってこうだね。
かっこいいよね。



バッタって何を
食べるのかな。
調べてみよう。

学校教育（小学校）での姿

◆言葉による伝え合い

- ・相手の考えを受け取りながら、自分の考えを伝える。
- ・自分の思ったことや疑問を友達に伝える。

◆自立心

- ・分からないことや難しいことにも、粘り強く最後までやり遂げようとする。

◆思考力の芽生え

- ・不思議に思ったことや疑問に思ったことを尋ねたり、進んで調べたりする。
- ・比べる、試す、工夫するなどして課題に取り組み、解決に向けて主体的に取り組む。

◆協同性

- ・友達と助け合って、楽しく学習したり生活したりする。

◆数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚

- ・具体的な操作を通して、数の合成・分解をする。

【算数】（単元名）

くらべてみよう。
(長さ・かさ・ひろさくらべ)



⑦に水を入れて、他の
入れ物に移して比べたら。



他のコップを使って、○杯分
かて比べてみたらどう？

◆自然との関わり・生命尊重

- ・動植物や身近な自然に触れ、育つ場所や環境づくりに興味をもつ。
- ・世話や成長に関心をもち、愛着をもって大切に育てる。

◆社会生活との関わり

- ・学校で学習する内容と自分の生活を結び付けて、学習や生活に必要な情報を調べたり活用したりする。

◆協同性

- ・友達とアイデアを出し合い、協力してやり遂げる。

◆豊かな感性と表現

- ・絵や図、言葉や文で自分の思いや感じたことを表現する。

【生活科】（単元名）

げんきにそだてわたしのはな

〇〇園で育てた野菜みたいに
葉っぱがギザギザしてるよ。



大きくなるように、
水をあげよう。

太陽がたくさんあたるところに
おいてあげよう。

「円滑な接続を進めるための 3つのポイント」

各園や学校で、組織的・計画的・継続的に！

☆保育者と教員が、園小中一貫教育研究会やかけがわ乳幼児教育未来学会等の研修や交流などを通じて、幼児教育と学校教育について、理解を深めていきましょう。



☆相互理解を深め、連携・接続を進めるためには、長期的かつ柔軟な視点で発達や学びの連続性を捉え、その上で発達の段階に留意しつつ、子どものよさを生かしながら、資質・能力を育み続けるという視点が重要です。

ポイント ①

学校や各園内で組織をつくり、カリキュラムの作成・共有をする

- 学園内（各園・校）の担当者を決定し、組織をつくる。
- 子どもの実態を話し合い、学園内で目指す子どもの姿を明確にする。
- 目指す子どもの姿をもとに、意図的計画的な教育課程（アプローチ・スタートカリキュラム）を組む。
- かけがわ乳幼児教育未来学会や市の研修等で各園・校のアプローチカリキュラム・スタートカリキュラムを共有する。（縦と横のつながりを生かす。）

ポイント ②

子どもの姿を語り合う

- 保育・授業を参観し合い、子どもの姿から学園の目指す子どもの姿に即して話し合う。
- 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を参考に、学園内の子どもの育ちと学びについて語り合う。
- 学園内で異校種（園・小・中）体験研修の機会を増やす。



ポイント ③

実践を進めながら改善を図る

- 活動の中で見られる「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）」を参考に、子ども理解を進める。
- 園内の子どもの姿をもとに、課題を共有し改善につなげたり、成果を積極的に共有したりする。
- 資料を蓄積し、成果と課題をもとに、アプローチカリキュラムとスタートカリキュラムを見直し、次年度以降の実践につなげる。
- 具体的な場面をあげ、実践事例を共有する。

幼児教育と学校教育の接続を通して、 保育・授業の質の向上を！

子どもたちの学びをつなぎ、成長を促すためには、互いの保育・授業を知ることが大切です。

子どもたちは、「どんな環境」で「どんなこと」をしているのか、子どもたちの育ちと学びを共有しましょう。

そして、幼児教育と学校教育の円滑な連携・接続をきっかけに、互いの保育・授業のよさを学び合い、さらなる保育改善・授業改善を進めていきましょう。

学園ごと全保育者と全教員が、 子どもたちの姿・カリキュラムを共有 しましょう！

目の前にいる子どもたちの目指す姿とそれぞれのカリキュラムを、学園内で共有することで、保育者と教員が同じ方向を向いて支援することができます。

すべては、子どもたちのために、一緒になって取り組んでいきましょう。

園小中一貫教育推進研究委員会 委員

委員長	兼子 美	(土方小学校長)
副委員長	山城まゆみ	(中幼稚園長)
委員	中村 千里	(社会福祉法人未来理事長・統括園長)
委員	佐々木快典	(智光こども園長)
委員	大石由美子	(おおさかこども園長)
委員	岡本真理子	(掛川聖マリア保育園長)
委員	金子 紋也	(桜木小学校 主幹教諭)
委員	堀池 久美	(大坂小学校 教務主任)
アドバイザー	平野理枝子	(県教育委員会義務教育課 教育主幹)

【事務局】

課長	山田 英子	(学校教育課)
課長	高柳 由美	(こども希望課)
主席指導主事	柴田 勝明	(学校教育課)
指導主事	山梨 規子	(こども希望課)
指導主事	笹瀬 知沙	(学校教育課)
指導主事	太田 浩徳	(学校教育課)
指導主事	沢田 佳史	(教育政策課)

